大阪シニア自然カレッジ
OSNC　2021

MONTHLY LETTER

No18　1月13日
第2水曜発行

編集部＝竹中光子、中務佐代子、上溝敏子、飯田憲三　knziid@gmail.com　090-6665-3750

トピックス　コロナ禍、大雪、寒波襲来など厳しい年始です

今号は４頁

〇コロナ第三波の年明けとなりました。　今年こそ穏やかな年となりますよう！
〇講座終了の会員皆様へ。「部会加入案内・加入申込書」提出をお願いします。
〇講座生の皆様へ。現在、4月開講に向けて着々と準備を進めております。

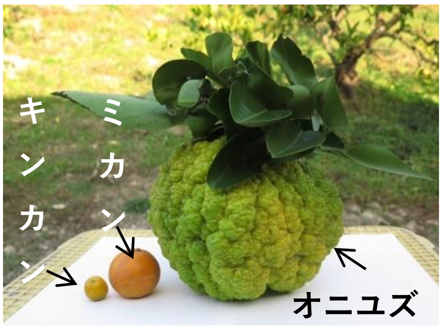
しぜん訪ねて　今回は　**流谷八幡神社の大しめ縄張り**について　**TMさん**より

南海天見駅から流谷川に沿って西に1ｋｍほど行ったところに**流谷八幡神社**がある。石清水八幡宮の別宮で長暦3年（1039）、同社の御神体を勧請したと伝わるが、ここで毎年正月（今年は1月9日）に「**勧請縄かけ神事**」が行われる。
流谷川を挟んで右岸の大きな古木（勧請杉）と左岸（社殿側）の柿の木の間に、**勧請掛縄**という長尺の注連縄（しめなわ、重さ 約100kg、長さ 70m）を張り渡し、村内に疫病や魑魅魍魎（ちみもうりょう）が入ってこず、無病息災と五穀豊穣を祈願する神事である。注連縄が梅雨の雨に耐えてコメの収穫時期まで残った年は豊作になるといわれる。注連縄張りの当日は、氏子の皆さんは持ち寄ったモチ米の藁を共同作業で綯（な）い、長尺の注連縄に仕上げていく。モチ藁が使われるのは藁に粘りがあるからだそうだ。

神社から更に西へ1kmあまり道なりに上っていくと左手に近年「**蠟梅の里**」と名付けられた所がある。30年ほど前に植えられた蠟梅の木々が立派に育ち、この時期一面芳しい香りを漂わせてくれる。ちなみにここは３月になると「**山茱萸の里**」に変身しふたたび美しい黄色い花々を楽しませてくれる。
正月早々の寒い時期であるが、伝統的な形態と規模を保っている縄かけ神事、一見の価値はある。ついでに蠟梅見学するのもいい。（なお、今年の縄かけ神事はコロナ禍のため、氏子さん中心に関係者だけで執り行われたと聞く）　（TM）

里山だより　正月を迎えた里山の様子　**MAさん**よりのお便り

新年おめでとうございます。今回は、お正月に因んだ話題です。
写真は冬空に舞う***ノスリ***です。「一富士二鷹三茄子」の**鷹の仲間**です。
この時期、北の地方から飛来するようです。
農作業中に空を見上げた時、この姿を見ると、自分が大空を飛んでいるような、伸び伸びとした気分になります。
今年も大空の下、大地の恵みを頂く**里山生活**を続けたいと思います。



左は**オニユズ**。**シシユズ**とも呼ばれ、見た目から、**鬼**あるいは**獅子**の名前が付けられたようです。ミカン山にも植えられ、今年も10個ほど実を付けました。お正月の飾りに使う**縁起物**で両手で持ち上げる大きさです。
寒い中、**水仙**が小川沿いの斜面に咲いていました。群生している景色がよく紹介されますが、一輪のみも良いものです。
今年も、春に向かって次々と可憐な姿を見せてくれる**野の草花**を見ながら、里山を楽しみたいと思います。

十人十色ひろば　　今回は佃さん。　昨年1月**蔵王**　での　**初スキー**の体験談です

佃 慶子さん（１１期生）

作業服風の貸ウエア
よく似合ってる？

行くなんて思いもしていなかった「雪の蔵王」！！
昨年１月末、自然カレッジ同期Aさんの声掛けで行ってきました。
初体験の私は、当然、初心者スクールからスタート。
まず、**リフトから降りる事の怖いこと。**
横に乗るコーチから「せ～の」の掛け声をもらって飛び降りる。が、降りる度に転ぶ・・・を数回繰り返しようやく着地成功。
転び続けながらも、なんだかだで二日間過ごして３日目は、頑張った成果をコーチが一人づつビデオで撮影。
そのため、中腹までリフトで。「集合場所に皆整列」するはず。がまたもや転び、見かねてコーチが助けに来てくれたものの私の引きずる力に負けて、一緒にズル、ズル、ズル・・・。ようやく止まった場所は、皆のはるか下。コーチは皆の所へ上がって行きながら、「佃さんはそこからのスタートでいいですから」だって。
なんとか滑り終え、撮影ビデオはグループごとに夕食後鑑賞会。自分では少しは**風にのって颯爽と滑っている姿**が映ってるかなぁと思ったけど、恐々、ゆるゆる滑っている姿に「さもありなん」と吹き出してしまった。
いよいよ最終日となり、自由時間。ゴンドラでMさんと一緒にいざ山頂へ！ 降りるとそこは見たこともない雪景色！ しばらくは景色に見とれ、戯れ、**こんな世界があるんだ**と連れてきてもらったことに感謝しきり。

夢のような３泊４日のスキー旅行。カレッジに入っていなければ考えることも、行くこともなかったスキー。
今年は残念ながらコロナ禍の為断念。また来年があるさ！！と切り替える。
「**楽しく真面目に適当に**」をモットーに、これからもいろんなことを楽しみたいと思います。

今にも動き出しそうな　樹氷モンスター

野鳥このごろ　　今回は**冬にやってくる可愛い小鳥たち**　　**MKさん**のレポートです

ジョウビタキ

ルリビタキ

冬期は樹木の見通しが良く探鳥には絶好の季節となります。またこの時期は多くの可愛らしい小鳥達が樹木の実を食するために北の方からやってきます。冬の小鳥で人気者といえば、紋つきの羽根を持つ**ジョウビタキ**と青い鳥の**ルリビタキ**でしょう。どちらもツグミ科ですがジョウビタキはシベリア方面から渡ってくる渡り鳥（冬鳥）で都市部の公園でもよく見かけます。ルリビタキは夏に高山で繁殖し冬は低山や里山にて越冬する漂鳥です。両者とも冬期は雌雄単独で行動し縄張り意識が強く冬中そのエリアを離れません、また人への警戒心が薄いので比較的簡単に出会えます。冬の小鳥は群れで行動する種が多く、大集団をつくるアトリ科の赤に黒の斑模様の**アトリ**（冬鳥）や黄色に黒の縞模様の**マヒワ**（冬鳥）が知られますが、アトリ科でも小群から複数で行動する個性派揃いの**ベニマシコ、ウソ、シメ、イカル**は漂鳥です。同様に少数の群れで行動するホオジロ科の**カシラダカ**、**ミヤマホオジロ**は冬鳥で**アオジ**や**クロジ**は漂鳥です。他にも群れで移動する**タヒバリ**（冬鳥）、**ビンズイ**（漂鳥）はセキレイの仲間で、**キレンジャク**、**ヒレンジャク**は冠羽がユニークでバーダーに人気があります。冬場は**カワラヒワ**や**シジュウカラ**、**エナガ**、**キクイタダキ**、**メジロ**等の可愛らしい小鳥達も群れで活発に動き回っています。近くの公園にもこれ等の小鳥達はやってきますから一度、双眼鏡を持って散歩してみるのは如何でしょう。

アトリ

マヒワ

ワンダーワールド　「いのちの営み探検部会」の活動／選　今回は **カラスウリⅡ** について **田畑さん** より

妖艶な夜の花カラスウリの戦略　カラスウリの話Ⅱです。前編はWL２号（４月22日発行）参照してください。

晩秋の林などのふちに朱色の可愛い実をつけているカラスウリ。 リース作りや冬の花飾りにもよく使われます。夏の夕方暗くなると雄花の開花が始まります。夜目に鮮やかな白いレースのドレスをまとい ほのかな甘酸っぱい香りを漂わせて夜の蝶ならぬ蛾（**スズメガ**）を誘います。 約一時間後に雌花が咲き始めます。スズメガは雄花でタップリ花粉をつけて雌花へ。効率の良い受粉の仕組みです。

雌花(左)と雄花(右）中央部が異なっています

スズメガ

正月飾り

秋には朱色の実になります、春ごろには枯れた実の中に黒茶色の種ができます。 **種は打ち出の小槌・大黒様の顔**のような形で縁起の良い金運のお守りと云われています。

ことしの春には大黒様の顔、打出の小槌をさがして幸運を！ ことしの夏には妖艶な花を楽しみにしています。 Y.T

種　カードと比べた大きさ

南大阪昆虫記　昆虫部会のリレーレポート　今回は「**アサギマダラが舞う**」 ９期生 **西谷令子さん**です

アサギマダラはほぼ日本全国に分布し、成虫は春から夏にかけて北上、移動先で世代を重ねた後秋になると南下する。信じ難いが南は台湾や香港までにも及ぶらしい。よく知られる食草の**フジバカマ**は、**アルカロイド**という化学物質を含み、蝶が花の蜜を食して毒を体内に蓄積することにより身を守ると言われている。アゲハチョウよりやや小さめで、浅葱色をした羽を持つ、日本唯一の「**渡り蝶**」である。

渡り蝶という言葉を知ったのは、今から１０年ほど前に四国の地方新聞に載った、実家の畑に舞う蝶の記事を見た時だった。当時は長い旅の理由が、スナヒキソウ、ヨツバヒヨドリ、フジバカマ等限られた場所で限られた時期にしかない食草にあるなど、知る由もなかった。

新聞掲載の３年前、兄夫婦は会社を退職後、田舎の家に戻る前に「**植えればアサギマダラが来る**」と聞きフジバカマを育てていた。今から７～８年前のピーク時には、**畑に一日８百～千頭のアサギマダラが乱舞してる**と嬉しそうだった。だが、理由不明だが、今は一日数十頭に激減していると聞き、なぜか寂しい。

初めてはっきりとアサギマダラを意識したのは、羽に**マーキング**した時だった。秋、実家の庭をふわふわと優雅に舞う蝶を捕獲し、網からそっと両羽をつまみ出し、羽に字を書く。**捕獲日、登録した自分の名、その日捕まえた何頭目かの数字を油性ペンで記入する**のだが、蝶の生態調査目的と割り切っていても痛々しい。

マーキング　↑

「元気でね～」と腕を空に突き上げ手を広げると、蝶はそっと飛び立って行った。

県によって「**アサギマダラを調べる会**」があり、マーキング蝶の捕獲時に連絡するとデータ登録されるが、大阪府では大阪市立自然史博物館が事務局となっている。

私の住む和泉市には、四季折々の花が咲くリサイクル公園があるが、ここにもしもフジバカマを一斉に植えたなら、秋には無数のアサギマダラの舞いが見れるのではないかと夢見ることがある。

兄からフジバカマの苗木が届いたら、我が家の庭に植えてみよう。

野の花このごろ　　今回は **樹木の実とその作戦** について　**MKさん**より

クロガネモチ

一月になっても里山や公園の樹木はまだまだ多くの木の実を残しています。そもそも樹木が秋に実らせるのは冬場、鳥や小動物達に実を食されるよう季節を選んだからとも、そして各動物に合わせるよう実のサイズ、色、形そして熟する時期を変えて行き、現在の状態に収斂したとも言われています。大きな樹木でも実が小さいのは、小鳥がのみ込みやすいようにしているからなのです。鳥はどのような味覚を持っているのかはよく分かりませんが、鳥にとって美味しいと感じるものから先に手を付けるようで、各樹木は早く、又一度に食べられないよう色々な作戦をとります。

ハゼノキ

カラスザンショウ

赤い実は鳥にもよく目立つようですが、**ナンテン**や**ピラカンサ**、**クロガネモチ**のように鮮やかな赤い実ほど美味しく無いのでしょうか何時までも残っています。**赤い色は未熟で美味しくないことを知らせるサイン**であり、それが戦略なのかもしれません。

センダン

一方、秋の早いうちから食べて下さいとばかりに熟して、鳥の大好物なのが**カラスザンショウ**や**ムクノキ**、**ミズキ**、**クマノミズキ**等の黒っぽい実です。ミズキも始めは赤色ですが、この頃になると黒く変色してきます。晩秋から初冬にかけて鳥に大人気なのが**ナンキンハゼ**、**エゴノキ**、**ハゼノキ**、**ヌルデ**などのウルシ類で、地味な色ですがこの時期に熟し、脂肪分や塩分を多く含み、栄養価で勝負します。エゴノキにはえぐみがありますが鳥には影響なさそうですね。そして冬枯れに何時までも実を残している**センダン**の実は赤くも黒くもなくサイズも大きいですが、どんな作戦を持っているのでしょう。

コロナ済んだら行きたいな！　　「けん」の旅日記 ⑧　１月　五島市／ツバキ

五島のツバキ　「玉の浦」

私が五島を訪れたのは６月。いつ訪れても美しい島ですが、**最も華やぎを見せるのは椿咲く早春**とのこと、「１月の旅」とさせていただきます。
かって長崎市の外海（そとめ）地区で、隠れキリシタンの秘話や残された教会群に強く心を撃たれた私は「いつか五島を訪ねよう」と決めていました。
長崎から福江まではフェリーで３時間余、ジェット船でも１時間半を要する遠路です。江戸時代、手漕ぎ舟で長崎から五島に逃れた隠れキリシタンの方々には文字通り**命懸けの海路だったか**、と感慨に耽り波頭を見続けておりました。
五島での多くの教会群を訪ねる時間は、信仰心のまるでない私でも妙に神妙にさせられるひと時でした。
簡素な教会は清掃が行き届き、花々が植えられ清明さに溢れています。
福江から更に渡船で渡った久賀島に**旧五輪教会**があります。港から島に３台だけのレンタカーで４０分、さらに椿の原生林を抜けて20分弱歩くと、海沿いに**それはそれは小さな教会**がひっそりと佇んでいます。
世界遺産になったことで教会守として２０代の若者が常駐していました。
「私はクリスチャンでないのですが、県の委託に応募し、こうして隣の苫屋に住んでおります」と笑う青年は屈託なく、久賀島の空や海の青にも似て清明さに溢れていました。

旧五輪教会
教会守の住む苫屋

高浜海水浴場

五島は椿の島です。１～３月、島はツバキの花に包まれます。美しい椿「**玉の浦**」は野生の椿で、発見された五島市の集落の名を付けられました。
椿の他にも五島は美しさに溢れています。**高浜海水浴場**は日本で一番美しい海水浴場で、季節を問わず、美しさに足がすくみ動けなくなってしまいます。
旅らしい旅を願う方には1月～3月の五島列島は最良の行き先かも知れません。